

高齢者安心見守り支援事業の検証結果について

【事業概要】

在宅のひとり暮らし高齢者に対し人感センサーによる見守り機器を貸与し、見守りと安否確認を行う事業。高齢者やその家族への安心感の提供と孤独死の防止を図ることを目的とする。

令和3年度陶地区で検証開始、令和4年度稲津地区を加え検証継続。利用者アンケートを元に今後の事業継続性を検討することとした。（検証期間中は利用料無料。正式な運用開始後は2,420円/月の予定）

【検証結果】

◆利用者数 11名（1月31日時点。延べ利用者数17名）

◆利用者アンケート結果

Q1 センサー満足度

〔利用者〕満足（8名）、どちらでもない（3名）

〔家族〕満足（13名）、どちらでもない（6名）、不満（1名）

Q2 今後のセンサー設置希望

〔利用者〕設置したい（5名）、設置したくない（6名）

〔家族〕設置したい（8名）、設置したくない（11名）

Q3 設置したくない理由

〔利用者〕利用料が高い（4名）、必要ない（4名）、緊急通報装置がある（1名）

〔家族〕利用料が高い（4名）、必要ない（6名）、緊急通報装置がある（3名）

Q4 自宅で安心して暮らすために必要なものは

〔利用者〕見守りセンサー（3名）、コールセンター（6名）

〔家族〕見守りセンサー（7名）、コールセンター（6名）

【結論】

令和4年度をもって見守り支援事業を廃止する。

【代替事業】

令和5年10月以降、緊急通報装置（あんしん電話）にコールセンター業務を追加する予定。身体の不調を感じた場合、コールセンターに相談が可能となることに加え、コールセンターから本人へ月1回安否確認の電話が入る。また、オプションで見守りセンサーを追加することも可能